

「超ハイテン」と呼ばれる軽量で強度のある素材について、6月に浜松、湖西市の産学官で研究会を設立した。静岡大学院教授で専門は塑性加工学。北海道出身。48歳。

―超ハイテンとは。

「自動車の骨格部品などに使われる鋼材で、強度と軽さの性質を併せ持つのが特徴。自動車の製造コスト削減や燃費向上に役立ち、二酸化炭素削減にも寄与する。一方で、加工には難しさがある」

―研究会の構成メンバー

は。

「浜松地域の金型メーカー」

はままつ超ハイテン研究会長

はやかわ くに おさん (中区舘塚町)
早川 邦夫

この人



―など民間企業11社と静岡大、浜松工業技術支援センター、浜松地域イノベーション推進機構が参加した。2010年から活動していた前身団体にスズキや新たな中小メーカーが加わり、発展させた組織になった」

か。 ―どんな活動をするのか。

「超ハイテンに関するデータはまだ少ない。基礎試験を重ね、最適な成形技術の確立につなげたい。自動車部品以外にも、自動車運搬車両が使う道板や建設用架台など新たな用途開発にも取り組む」

―目標は。

「3年後をめどに研究成果をデータベース化した。参加企業が得られた情報やノウハウを共有し、超ハイテン関連のビジネス獲得を目指す」

◇

研究会活動を通して「地域産業が活性化できれば」と意気込む。